



長谷 陽子 議員
(無党派)

問 戦後80年、昭和から1000年を機に平和事業の継続的な取組を

答 平和非核宣言の精神を風化させないため、引き続き平和事業に取り組んでいく

問

今年(令和5年)は戦後80年、昭和から1000年という節目の年を迎え、焼け跡から戦争しない国として立ち上がった日本は復興から高度経済成長を遂げ、繁栄を築いてきたが、そうした時代は過去のものとなりつつあり、急速に人口が減少、経済は低迷している。

分断が進む世界では戦いが止まない状態にあり、こうしたことから、戦後80年、昭和から1000年を迎える今年、平和と民主主義を誓った戦後を見つめ直す時である。

幕別町として、これを機に、例えば、文芸誌によるこの間の振り返り特集や講演会、動画での発信、町民の空襲体験や学童疎開などの体験を聞く会、図書館やふるさと館での特別企画展示、映画会や小中高生による平和標語や平和を願う作文、メッセージ等の募集、学校での平和教育など、今年だけでなく継続的に平和事業に取り組む考えについて伺う。

町長

本町においては、「平和非核宣言」の精神の下、具体的には平和事業及び平和教育に取り組んでいる。平和非核宣言の看板を町内4か所に設置しているほか、核兵器使用の悲惨さを忘れず、核廃絶と平和の重要性を考える取組として、毎年8月に幕別・札内及び忠類の3地区で順番に原爆パネル展を開催している。

また、平和首長会議の一員として加盟都市と連携し、「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動も行っている。戦争の歴史を学ぶ取組として「町民文芸まぐべつ」で町民の戦争体験や史実録が掲載されたほか、学校の社会の授業の一環として空襲跡地の現地学習が行われている。

今後においては、戦争経験のない多くの方にも知ってもらうため、広報紙の特集ページの掲載について検討するほか、講演会、映画の上映や演劇などを通じて戦争の歴史に触れる機会の提供の可否につ

いて、指定管理者等と密接な連携を図るとともに、行事等の周知に努めていく。

図書館では戦争に関する郷土資料を収集・展示しており、例年8月には「戦争と平和に係る図書展示」として特別展示を開催している。

ふるさと館では、戦争に関する展示品として旧日本軍の水筒、寄せ書きをした日章旗、軍隊手帳など25点を常設展示しており、改めて広報紙やSNSで紹介し来場を促していきたいと考えている。また、小中学校の平和教育は学習指導要領に基づき、児童生徒の発達段階に応じた内容を社会科で扱い、平和な世界実現のため我が国が果たす役割等を学習している。

「小中高生による平和標語や平和を願う作文、メッセージ等の募集」については、一部の学校では題材として取り組んでいるものの、全学校での実施は難しいため、今後も引き続き、戦争の残した教訓や平和の大切さについて理解が

再質問

世界情勢では第二次世界大戦に似た領土争いが起き、人命軽視が進む中、次世代に平和を継承する責任があると考える。平和を守るには、コミュニケーションと対話を重視し、相手への理解と思いやりを持って対話を続けることが必要と考えるが、町長の考えは。

答

外国からの侵攻があった場合には、平和外交を政府が責任を持って進めるべきと考える。我々は戦争の惨禍を忘れず、二度と日本から攻めることがないよう、学びと理解を深める努力を続けることが重要であると考える。



原爆パネル展の様子(令和5年)
(札内コミュニティプラザ内)